

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（平成27年度前期）

平成27年 7月8日（水）作成

校長 海野 武仁

記述者 教頭 岸本 貴志

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知
 - ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・・・・・情
 - ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・・意
 - ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・・体
- 生きる力

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道徳教育の実践
- ・人権や福祉の尊重、国際交流を切り口とする国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり
- ・上記の実現を図る教職員の資質の向上

1 全体評価

前年度と同じ全46の質問項目(オリジナル項目を含む)によるアンケート形式で全37名の教職員を対象に実施した。すべての項目において最頻度がAまたはB評価の肯定的評価であった。最頻度Aは33項目〔前年度後期32項目〕, Bが16項目〔同14項目、Aと同値を含む〕で、全体的に高い肯定率となっている。肯定率9割以上の項目数は、前回(H26年度後期)より6項目減った。前回と比較して5ポイント以上の上昇が見られたものが3項目、5ポイント以上の下降が見られたものが11項目であった。下降した項目では、特に学習指導に関わる項目が多かった。また、C・D評価が10%を超えたものが9項目(うち、2項目は約20%)あり、改善していく必要がある。

学校評価の結果を全職員が共有し、課題を明らかにするとともに改善策を考え、実践していかなければならない。

前期自己評価で、特に改善が必要な項目および継続が必要な項目を挙げてみると、

① 学校教育目標・学校経営について

- ・学校教育目標や校長の経営理念に対する認識を全教職員が深め、教育活動全般においてPDCAサイクルに基づく実践を継続していく。

② 学校運営について

- ・職員会議を教育活動全般における共通認識、相互理解を図る場と捉え、学校運営への参画意識を高めていく。
- ・校内研究の目的や意義を全職員で共有し、自己の実践に対する課題意識を持って主体的に取り組んでいく。

③ 学習指導について

- ・基礎基本、学ぶ意欲、学ぶ集団づくりを重視した指導を継続して行う。

- ・教材教具の工夫や個に応じた授業など、「わかる授業」づくりに向けた工夫改善をさらに推し進め、一人一人の生徒に確かな学力を身につけさせていく。
- ・家庭学習の充実に向けた取組を学校体制で実践していく必要がある。校内研究とも関連させながら、家庭と連携しつつ個別指導や集団指導を継続していく。

④ 生徒指導について

- ・校内組織が機能し、情報の共有ができています。職員間の協力体制のもと、組織的な取組をさらに強化したい。
- ・課題や問題に対して素早い対応ができていますので今後も継続する。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対し、外部機関との連携を含め、寄り添いながら粘り強い指導を継続していく。

⑤ 地域との連携について

- ・HPや各種たより等を通して学校からの情報発信を積極的に行う。また、地域や保護者の声を積極的に聞き、連携を深めることを通して学校運営組織の改善と活性化、開かれた学校づくりをすすめる。

⑥ 学校の特色について

- ・鍛練、合唱、読書活動など、本校の特色として行っている教育活動については、その目的や教育的意義を全職員で共有し、今後も充実した活動となるよう継続指導していく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標や指導重点が全職員に理解され、それに基づいて教育活動が行われている。 ○P-D-C-Aサイクルに基づいた教育活動が概ね実践されているが、さらに確実にマネジメント機能を向上させていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、学校関係者評価、保護者アンケート、生徒アンケート等の結果を踏まえ、校長の推進する“P-D-C-A-C-A”サイクルを意識した学校運営を進めていく。 ・各種教育活動を「毎年実施しているから」といった認識で実施するのではなく、生徒の実態を踏まえ、その目的や意義を再確認し、工夫改善を重ねていく。

II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動が教職員間の共通認識・協力体制の中で組織的に行われている。 ○報告・連絡・相談・確認が日常的に行われ、縦・横の連携ができています。 ○危機管理、危機意識についての認識は高い肯定率となっている。 △校内研究に主体的に関わる割合が前回よりも下がっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究は学校内における重要な研修の場であることを踏まえ、その意義や目的を再認識し、自己の実践を振り返るとともに、主体的に参画していく。 ・危機管理に関し、訓練や研修、学習を通して教師の主体的判断力や実践力をさらに高めていく。 ・「報連相確」を大切に、共通理解のもとで協働して教育活動を行う。

Ⅲ 学習指導について	
達成状況	<p>○基礎基本の定着を重視し、学ぶ意欲を育てる授業づくりを行っている。</p> <p>○学ぶための集団づくりに力を入れ、学習規律が定着している。</p> <p>△個への配慮や教材・教具の活用については、さらに工夫改善していく必要がある。</p> <p>△宿題や家庭学習の指導について前回より肯定的回答が大きく下がっている。学年の目標時間をクリアしている割合もおおよそ6割強にとどまっている。</p> <p>△習得・活用・探究を意識した授業改善は、研究指定校であった昨年度に比べ、肯定的回答率が下がった。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学習状況や学力を多角的な方法で的確に把握し、それに応じた指導方法や教材教具の活用を工夫し、「わかる授業づくり」を実践する。また、自己の授業方法を振り返り、常に授業改善に努める。 ・ 自主的・主体的な学習習慣の確立や家庭学習の定着についての指導を校内研究とも関連させながら組織的に実践し、検証していく。 ・ 昨年度の研究の成果や今年度の校内研究の内容を踏まえ、習得・活用・探究を意識した授業実践を継続して行う。

Ⅳ 生徒指導について	
達成状況	<p>○すべての項目について、高い肯定率となっており、生徒指導が組織として有効に機能している。</p> <p>○「報告・連絡・相談・確認」が適切に行われ、生徒指導上の課題を全職員が共有し、迅速かつ適切に対応できている。</p> <p>○いじめ問題については未然防止と早期発見に努め、組織的な対応を行っている。</p> <p>○生徒指導上の問題や課題を抱えている生徒に対して、担任や学年職員を中心に粘り強い指導を行っている。</p> <p>△学年間の連携や調整が必要なときの指導体制をさらに工夫していく必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒との信頼関係の深化をさらに図り、生徒理解を継続して進める。 ・ いじめの未然防止と早期発見・早期対応ができるよう、日常的にアンテナを高くし、生徒の状況把握に努める。 ・ 課題や問題への事後対応に追われがちであるが、望ましい生活習慣の育成や学級集団づくり、体験活動の充実など、積極的な生徒指導に力を入れていく。 ・ 出張等で生徒指導で人員が不足するときは、他学年と連携して対応するなど、連絡を密にして対応する。 ・ 生徒に寄り添いながら、声かけや相談活動を継続する。小さな変化に気づき、適切にアドバイスできる教師でありたい。小さなことの積み重ねが生徒や保護者、地域との信頼関係を深める。このことを踏まえ、生徒一人一人の学校生活の一層の充実を図っていく。 ・ 課題を抱えている生徒に対しては、保護者や関係機関との連携を密にし、粘り強く働きかけを続けていく。

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○保護者や地域の意見や要望を受け止めることに関しては改善されつつある。</p> <p>○HPの更新，各種たよりの発行等を通して，学校の情報を積極的に発信し，本校の教育活動への理解を推し進めている。</p> <p>○「一人一活動」への協力をはじめ，PTA活動が円滑に実施され，保護者も協力的である。</p> <p>△地域人材や施設活用を含め，地域の教育力を生かす方策を検討していく必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面で，地域の声や保護者の声，要望等に真摯に耳を傾け，学校がそれに応えられるよう，改善策を考え，実行していく。 ・PTA「一人一実践活動」を学校と保護者の連携の重要な場であると捉え，教師が積極的に関わっていく。 ・HPを定期的に更新し，学校の様子を積極的に公表する。 ・地域の人材や施設の活用について各教科，道徳，総合的な学習の時間，特別活動の中で検討し，実践する。 ・保護者や地域住民に対する学校解放の機会を増やし，敷中教育への理解を一層深める。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○前年度と同様に高い肯定率となっている。読書や合唱活動，リサイクル活動など，本校の伝統と言える活動を大切にし，継続した取組が行われている。</p> <p>○PTA活動や年輪祭，合唱祭などへの参加協力など，学校の教育に対する理解と協力が得られていると感じる。</p>

3 まとめ

<p>〈成 果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の具現化に向け，校長の経営方針（「知・情・意・体」の調和のとれた人間性豊かで主体性に富んだ生徒の育成）のもと，全教職員による組織的な教育活動が行われている。また，教職員間の「報告・連絡・相談・確認」が日常的に行われ，縦・横の連携ができています。今後も維持向上させていきたい。 <p>〈課 題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度及び今回の学校評価の結果を踏まえ，本校の課題及び改善策を全教職員が共有し，学校運営改善の取り組みを行っていく。様々な活動において，「P・D・C・A」の各段階を丁寧に行い，教育活動の工夫・改善をすすめる。 ・すべての教職員が自己の分掌や役割を認識し，他の教職員と連携，協力する中で，主体的に学校運営へ参画していく意識の更なる向上を図る。 ・学習指導，生徒指導，生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち，組織をフルに活用して改善，向上を目指したい。 ・保護者，地域と学校の連携を推進し，開かれた学校づくりを一層進める。
--